



世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

能登の里山里海



春



夏



優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる棚田や「間垣」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどが広がっています。

伝えたい伝統的な技術

日本で能登に唯一残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、「輪島塗」といった伝統工芸、「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。



伝統的な農林漁法と土地利用

稲のはざ干し(天日干し)や海女漁などの伝統的な農林漁法が継承されています。また、干を超える「ため池」が点在し、傾斜地には多くの棚田が見られます。



里山里海の利用保全活動
棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、行政と大学が連携した人材育成などが進められています。

文化・祭礼

ユネスコ無形文化遺産に登録された「あえのこと」をはじめ、農林水産業と結び付いた文化・祭礼が伝承されています。



多様な生物資源

希少種を含むたくさんの生きものが生息・生育しています。また、「能登野菜」などの在来品種の栽培の振興がはかられています。



冬



秋

世界農業遺産
「能登の里山里海」
それは
能登の暮らしそのもの。



世界農業遺産認定による効果

伝統的な農林水産業の継承

「能登の里山里海」の次世代への継承

- 地域内の高校生が、地域の農林水産業を支えてきた「地域の名人」を訪ね、その知恵や工夫、思いを聞き取りまとめる「聞き書き研修」を平成24年度から実施。高校生からは、「名人のように社会に貢献できるような人になりたい」、「地域に対する見方が変わった」などの意見が聞かれた。



活動報告書が発行されています。

- 令和元年度からは、「聞き書き研修」をさらに発展させ、「能登の里山里海」の生業を高校生に体験してもらい、地域の魅力の再発見や定住のきっかけをつくる取組を実施。

- 地域内の小学生(高学年)を対象に、身近な存在である「能登の里山里海」をより理解してもらうため、副読本教材を作成し・配布。(これまでに4,200冊配布)



副読本は、親しみやすいように漫画で描かれています。

- 石川県内の大学生を対象に、能登をフィールドワークの場所として、地域振興の実践例を学び、能登への理解を深める「いしかわ里山塾」を平成30年度から開催。参加した大学生は、自らの経験を活かして小学生に対して出前授業を実施。

- 高校生対象プログラム(聞き書き含む)への参加人数:-(H23)→55人(R3) 累計234人参加
- 聞き書き研修(~H30)を受け入れた地域の名人の人数:累計73人参加
- 里山塾に参加した小学生の人数:48人(R3) 累計394人参加

農林水産業の振興

農林水産物の付加価値向上と生産振興

- 「能登の里山里海」で磨かれた選りすぐりの食品を、世界農業遺産 未来につなげる「能登の一品」として認定。(令和4年3月現在44品が認定)

認定商品にはロゴマークをつけてPR



【認定商品販売額】
認定前に比べ
約30%増
(認定商品の平均)
※令和元年度実績



能登大納言小豆 奥能登揚げ浜塩

- 地元企業と連携して、「いしかわ里山振興ファンド」を創設。里山里海の地域資源を活用した商品・サービスの開発等に取り組む地域住民や企業等を支援



- 地元金融機関と連携して、「いしかわ農業参入支援ファンド」を創設し、耕作放棄地の解消を目指す経営体の営農定着のために5年間支援。平成26年7月に設置され、(公財)いしかわ農業総合支援機構が運営。基金総額は200億円。

- 世界農業遺産 未来につなげる「能登の一品」の認定数:-(H23)→44品(R3年度末)
- いしかわ里山振興ファンドの採択件数: 11件(H23)→35件(R3) 累計256件採択
- 世界農業遺産認定後の能登の農業参入企業等の数: 47社(R3年度末)

観光産業との連携

地域資源を活用した観光産業の推進

- 「能登の里山里海」の地域資源を活用した、イベントやツアーなどを実施。

【白米千枚田でのイベント】

「能登の里山里海」を代表する棚田となっている「白米千枚田」では、「あぜのきらめき」や「稲刈りイベント」などが実施され、観光客は着実に増加。



「あぜのきらめき」などのイベントを実施。

【世界農業遺産スタディーツアー】

都市部の住民を対象に、平成23年度より、企業とタイアップして「世界農業遺産スタディーツアー」を実施。ツアーの参加者は、世界農業遺産を学び、「能登の里山里海」の多彩な魅力を体験。



「能登の里山里海」を体験できるツアーを開催。

- 世界農業遺産スタディーツアーの開催回数: 2回/年(H23)→2回/年(R3) 累計35回開催
- 世界農業遺産スタディーツアーの参加者数: 55人(H23)→220人(R3) 累計1,204人参加(オンライン開催含む)
- 白米千枚田への来客数: 420,600人/年(H23)→611,250(R1)